

# ちやぶ台から始まる都市。

都市の計画「ちやぶ台から始まる都市」。

人の動きにより、都市が変化する新しい

今回提示するのは人のスケールを元に

け建物に守られて暮らしている。

計画により区画された町の中で人は法律

現代の都市は人間のスケールをはるかに

超えた巨大な高層ビル群に包まれ都市



— 広島県 福山市「2XXX年の都市計画」 —

福山大学大学院 工学研究科 建築学専攻  
修士課程2年 河田陽依菜



# 1. 背景

## 1.1 現代の地方都市の町並み分類

1

### 町並みが変化し続けている町

再開発や大型商業施設の建設などにより変化し続けている市の中心となる駅前など。

2

### 戦後の復興から町並みの変化がない町

昔懐かしい雰囲気が残されている。

3

### 戦後に新しく開発された町

田や山を切り開き、戦後に新しく開発。

## 2. 提案

### 現代の都市計画に代わる

### 2XXX年の都市計画

現在人々は町の新しい発展にむけて様々な計画を立てておりそれらの計画は、数年後、数十年後を想定している。「2XXX年の都市計画」は、その計画が実行された後の未来に生じる問題に対しての計画であり、未来の視点に立ち、未来の視点から20XX年の都市を考察する。2XXX年がより良い都市になるための計画を段階を追って計画していく。

## 1.2 地方都市の問題点

### (1) 中心市街地の衰退



郊外へ大規模な商業施設の建設が進んだり、新しく住宅街が開発されたりすることにより駅前を訪れる人は減少した。駅前の賑わいを取り戻すため計画をたて、実行している都市もあるが賑わいを取り戻すまでには至っていない。

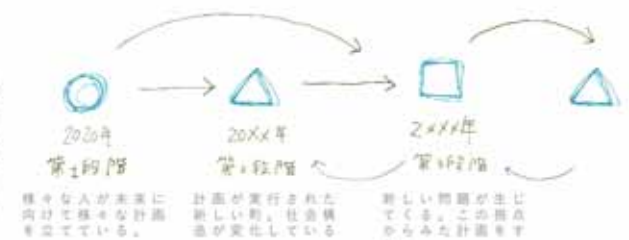
### (2) 再開発が行われていない町の将来

震災復興から一度も再開発が行われていない町は徐々に人口が減少する。しかし、落ち着きのある昭和の町並みは人工的に作り出すことは難しく戦後の建築、町並みも価値あるものとして捉えられる。再開発以外の今後の町の在り方考える必要がある。



### (3) 住宅団地の高齢化

戦後から開発された住宅団地は、働き盛りの30代から40代をターゲットにしており、高齢化も同時に進行していく。それに伴い、空き家の増加、交通機種の低下などの問題が発生している。地方都市の多くの人々の居住の場である住宅団地の問題を解決することはできるのだろうか。



地方都市に求められているのは建物の高層化が、新しい土地の開発ではない。

地方都市のこれからの方とはどのようなものなのか。

また大都市にはなく

地方都市にしかない魅力とはどのようなものなのか。





## 4. 敷地選定 — 三之丸 伏見町 日吉台 —

福山市を3分類した結果に基づき、分類ごとに一つずつ町を選定し、計3つの敷地を選定した。町並みが変化し続けている町、三之丸町。戦後の復興から町並みの変化がない町、伏見町。戦後に新しく開発された町日吉台。伏見町は、2018(平成30)年福山大学工学部建築学科卒業研究で行った「都市の逃げ道—広島県福山市伏見町うかり交流空間—」にて計画済みであり、今回は三之丸町のみ建築計画としての提案を行う。

### 1 三之丸町 — 町並みが変化し続けている町 —



戦後から大型商業施設の出店が続いている町。福山駅前再生ビジョンの対象エリアでありオフィスと商業施設の複合施設の建設が進行している。



2023(令和5)年に複合施設が完成し多くのテナントや企業が入居する。新しく整備された町に入々は興味を持ち集まるようになる。



建物が老朽化していく。また福山立地適正化計画などの影響により駅前外に新しく商業施設が建設されるなどして賑わいの場が郊外に移る。駅前には再び空洞化する。

空洞化とにぎわいを繰り返すのではなく持続性のある計画が必要

### 2 伏見町 — 戦後から町並みの変化がない町 —



2018(平成31)年まで開発が行われていなかったが現在は福山駅前再生ビジョンのエリアである。ビルのリノベーションが進められ「まち宿」の計画も進行している。



計画内容が完成し地域の個性が集まった町として多くの人々が集まる。周辺の観光施設へ向かう観光客の宿泊の場として地域外からも人が集まる。



まち宿の計画は周辺の町の観光業の影響を受けやすく、観光を主としている町が今後衰退すれば伏見町も同様に衰退してしまう。

個性を生かし周囲に影響されない計画が必要

### 3 日吉台 — 戦後新しく開発された町 —



福山市立地適正化計画の居住誘導区域に指定されており、人口を維持させることが目標とされている。またお出かけ支援事業などの高齢者を支える取り組みがある。



高齢者を町全体で支える仕組みができ、高齢者が住みやすい町となる。居住誘導区域に指定されたことにより居住施設が建築される利便性が向上する。



居住誘導区域は福山市の中で広範囲にあり、利便性を比較すると坂道の多い日吉台には人口の流入が見られないようになる。

他の町とは異なる新しい魅力を持った計画が必要

## 5. 共通コンセプト

### いつのまにかできる人の居場所。

建物の中に人を収めるのではなく、人が存在し、家具が一つあり、活動することにより空間が生まれる。ひとりひとりの空間を結びつけていくことにより町が生まれ、都市が形成される計画とする。伏見町は、椅子と人との間に生まれる空間である。人間のマイナスの感情に寄り添う「都市の逃げ道」として、駅前一人のための自然豊かな食べる空間を計画した。日吉台では、机と人との間に生まれる空間とし、人の日常の感情に寄り添う「都市の滞留」として、住宅団地の新しい過ごし方を計画する。三之丸町では、人と活動の関係により生まれる空間を計画する。人のプラスの感情に寄り添った「都市を縫う」として、大型商業ビルではない、新しい駅前在り方を提案する。



高層ビルの寿命が町の寿命。



現在駅前には、高層のビルが立ち並んでいる。

建物により、町はかたちづくられ、

駅前の高層ビルの中には

忘れられた「空ま」が存在している。

# 都市を縫う。

広島県

福山市三九丸町。

「都市を縫う。」として、

人の動きにより、町が形成される

自然と法則が生まれるような

新しい駅前の在り方を提案する。



人の動線が  
つくる法律。



## 1. 背景

### 1.1 郊外商業施設と駅前商業施設



福山駅前の商業施設の始まりは、福山駅前の「福山線ビル」(現:ines FUKUYAMA)である。商業施設は、形や名称、所有者を変えながら継続しているが郊外の商業施設と比較すると訪れる人は少なく衰退している。繁栄期には駅前には6施設あったが現在は4つとなった。

### 1.2 福山駅前再生 現在の取り組み

現在は福山駅前再生ビジョンをたたき台とし、福山駅前デザイン会議、福山駅前再生協議会などが行われており福山駅前再生ビジョンの更に詳細な計画をまとめた「福山駅周辺デザイン計画」が完成した。三之丸町は「職住混在のスマートでクリエイティブなオフィス街」と位置づけられており、2023(令和5)年に完成予定の複合ビルはこの計画の核となる施設である。

### 1.3 問題点

- 建物の寿命とともに計画も寿命になり町が衰退。 → 計画の持続性と駅前の未来を考える必要がある
- 全国チェーン店による個性の消失 → 個性を持った店舗。
- 駅前の再生を行うことにより新しく郊外の町に問題が生じる。 → 計画が実行された後の都市全体の将来を考える必要がある。

## 2. 三之丸町 ビル調査











目  
目

早苗 (ななえ) を植える月。  
このエリアには既存の店舗が多く存在し、  
苗を植える始まりの場所となる。

水  
無  
月

水の目で田に水まじりく風の息とちがれる  
細い路地を抜けると豊かに水が流れる。  
お店の隙間をくぐって探検できる。

文  
目

新緑の緑が空を埋め、  
木が実る様子を階段で表現。このまが  
から睦月のエリアまでスロープを登って  
行くことができる。

葉  
目

木々の葉が落ちる月。  
木が茂る場所から徐々に秋への足音  
が聞こえてくる。

オープンスペースの流れ

既存1階平面図



複数テナントが存在しているビル。  
例) 徒歩



各テナントの床面積の10%以上をオ  
ープンスペースで設定する。

各店舗で相談して  
共有の飲食スペースと  
通路を併用することに。



自然とオープンスペースがつなが  
ったり、集まる場ができたたりする。

異なる物を食べていても  
一緒に食事ができる場所。

2階平面図



上階で各ビルを繋ぐ廊下をつくるこ  
とでより豊かな場所が広がる。

将来ビルが完成した際に  
他のエリアとつなぐこともできる。



長月 夜長月。  
長い年月を存在するもの。  
町の基盤となる代表的な場所。



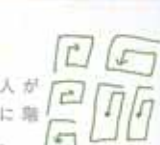
神無月 神の月の意味。  
建築物や階段を極力なくし神聖さを表現している。細い道を抜けると師走のエリアにたどり着く。



雨相月 霜の降り月。  
長月に向かう階段がある場所。既存の店舗も多く存在している。



師走 師匠といえども超走する月。  
一年で一番忙しい月。様々な物や人が集結する場所。このエリアは新規に階段は介入せず既存を生かしている。



「反転」「拡大」「縮小」  
を繰り返す都市。

人が減れば町も縮小する。  
人が増えれば町も拡大する。

現在の都市の再開発の手法は高層の建築物を建築するのみであり、建築物の老朽化に伴い町も衰退してしまう。地方都市に求められるのは町の個性を表現でき、また人の動きによって町がつくられていくことである。人が少ない時代には町も縮小し、人が増加すれば町も拡大するように人に合わせ町も変化することが大切であると考え。



20XX年

「拡大」









2018年12月29日